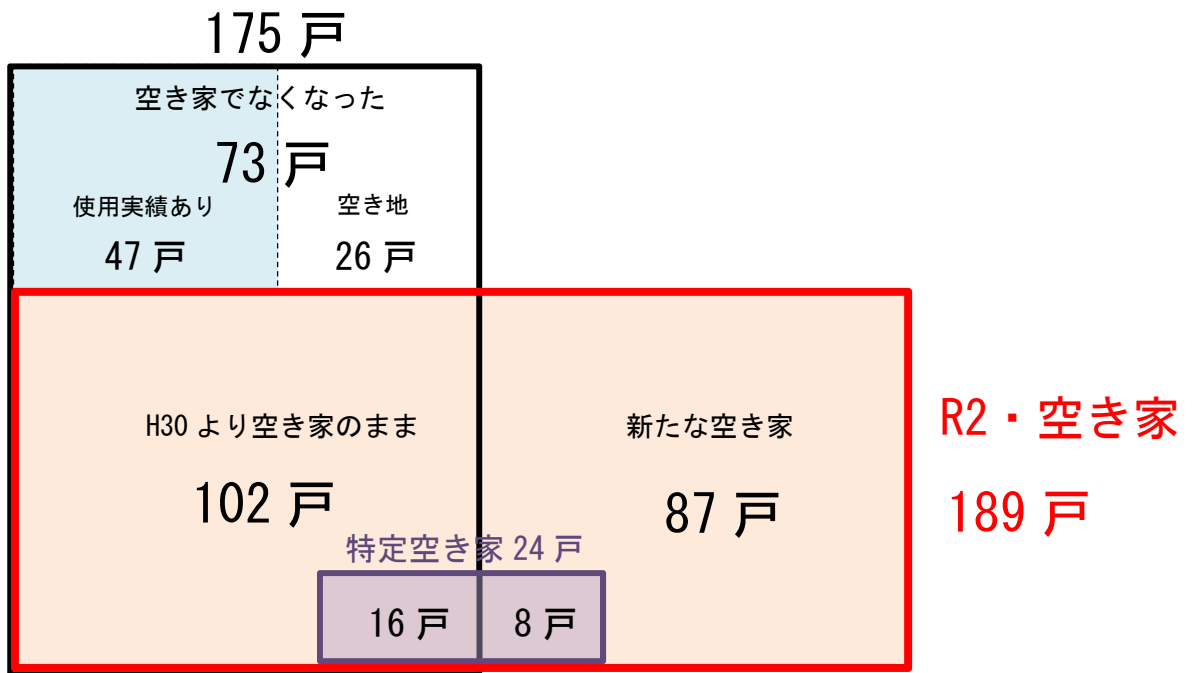


2. 調査結果の要旨

(1)今年度調査による空き家は189戸あり、前回調査からの空き家が102戸、新しく増えた空き家が87となった。前回空き家の約3割(47戸)に再入居利用が見られる。

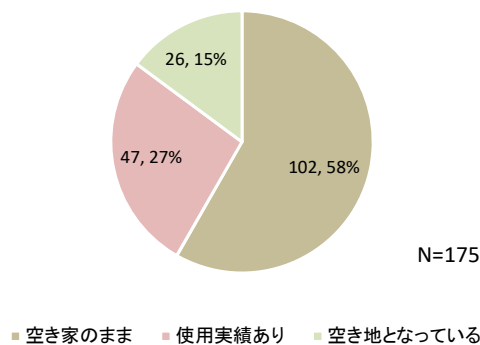
- ・今年度調査による空き家は189戸あり、前回調査から継続した空き家が102戸、新しく増えた空き家が87であった。
- ・特定空き家には24戸が該当し、内前回調査からの空き家が16戸、新たな空き家が8戸であった。

前回調査(H27)・空き家



- ・また、前回調査(H27)で空き家であった175戸は、102戸・58%が空き家のままで、26戸15%が空き地となり、47戸・27%が空き家ではなくなった(使用実績あり)。このことにより約3割に再入居利用が見られた。

前回調査時の空き家の動向



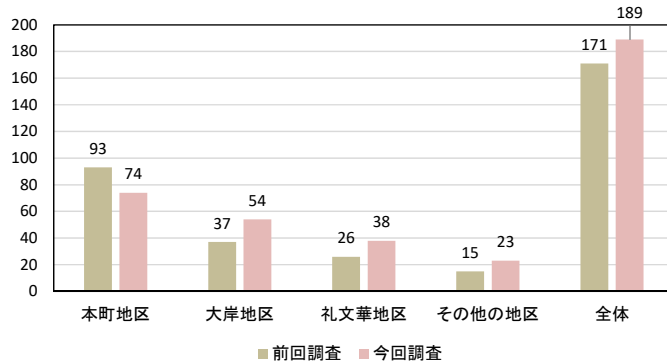
※2：前回調査の空き家台帳による空き家戸数は171戸であるが、今回の調査では、前回調査後に解体済された13戸を調査対象から除いた。調査を実施した前回空き家箇所と同じような場所に空き家が17箇所(重複番号で追加)あったためこれを前回調査時の空き家とカウントした。(171-13+17=175)

3. 調査結果

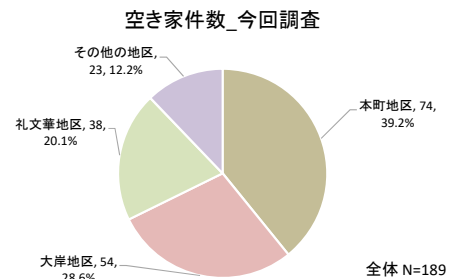
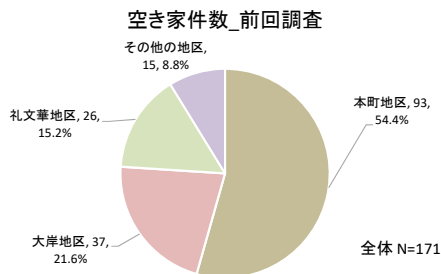
(1) 空き家は189戸あり、この内前回調査からの空き家が102戸、新たな増加が87戸であった。

・空き家戸数は189戸で、前回調査(H27)より18戸増加した。本町地区で約2割以上減少したものの大岸、礼文華、その他の地区※¹では3割以上増加している。

空き家数①

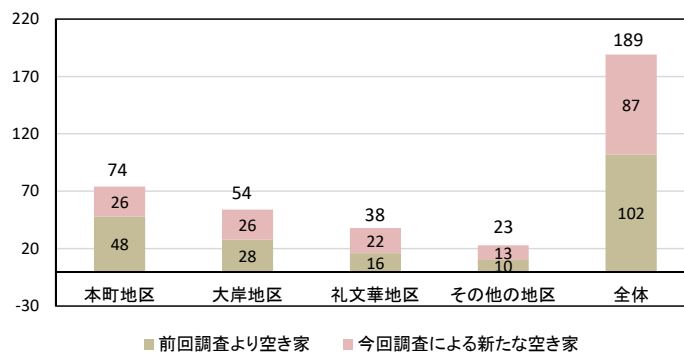


地区	前回調査	今回調査	前回比
本町地区	93	74	74.3
大岸地区	37	54	131.5
礼文華地区	26	38	131.6
その他の地区	15	23	134.8
全体	171	189	109.5



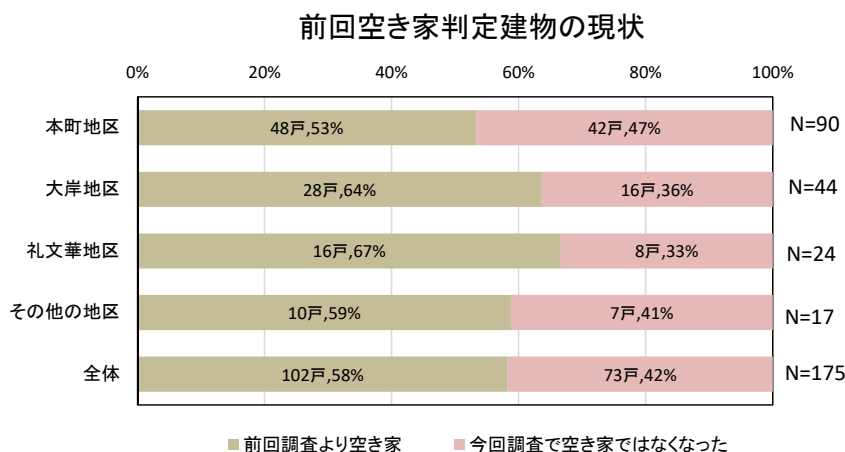
・空き家189戸の内、前回調査からの空き家が102戸で、今回調査で新たに増加したものが87戸となった。

空き家数②

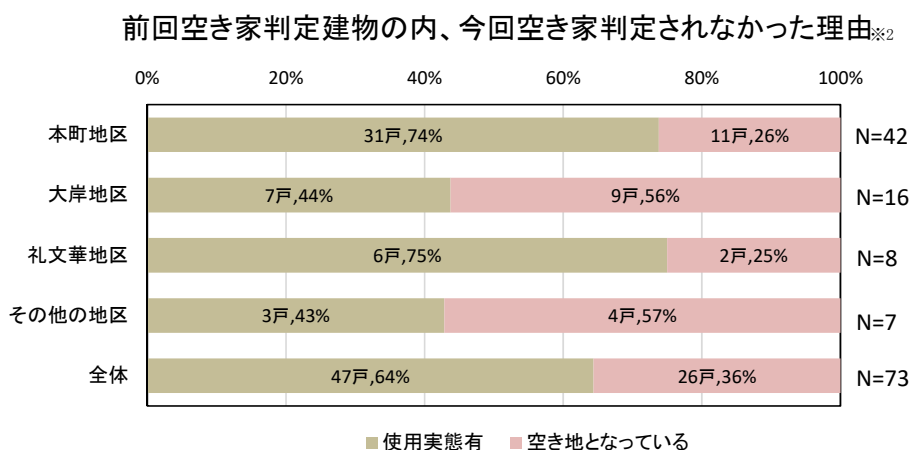


(2) 空き家で無くなった 73 戸の内、47 戸(約 64%)が再入居、26 戸(約 36%)が空き地となっていた。

・また前回調査で空き家とされた 171 戸(175 戸^{※2})の内、今回調査で空き家で無くなったものが 73 戸・42%あった。



・今回調査で空き家で無くなった 73 戸の内、47 戸・64%に使用実態(再入居)が確認でき、残りの 26 戸・36%は解体され空き地となっていた。



※1：その他の地区→桜、大和、美和、山梨、新山梨、上泉、新富の各集落

※2：今回の調査では、前回調査後に解体済された 13 戸を調査対象から除いた。調査を実施した前回空き家箇所と同じような場所に空き家が 17 箇所(重複番号で追加)あったためこれを前回調査時の空き家とカウントした。(171-13+17=175)

(3) 【老朽度判定】 対策が必要とされる「D 判定」「E 判定」が約 1 割(20 戸)であった。

・今回調査で空き家と判定した建物について、外観目視による不良度の調査を行い、判定結果により建物を A～E のランクに分類した。

老朽度判定のうち、利活用の期待ができる「A 判定」「B 判定」を合わせた空家は全体で約 6 割・112 戸、利活用には大規模修繕が伴うとされる「C 判定」が約 3 割・57 戸あった。一方、対策が必要とされる「D 判定」「E 判定」は約 1 割・20 戸あった。

